1 【国語】 ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試と同傾向の出題

本文と同出典の別箇所を関連させ、本文の内容について考察を深める出題

共通テスト 第２問 問６

第２問 次の文章は、遠藤周作「影に対して」の一節である。小説家志望の勝呂は、現在、翻訳の仕事で生計を立てている。そのなかで、彼は母のことを思い出しては現在の自分の生き方について考えるようになる。本文は、戦前の中国大陸で過ごした少年時代に病気で入院したときの回想から始まっている。これを読んで、後の問い（問１～６）に答えよ。なお、設問の都合で本文の上に行数を付してある。（配点 45）

問６ 授業で本文を読んだNさんは、二重傍線部「その時、まるで残酷な悪戯のように勝呂の頭にあの母の死顔が浮かんできた」という表現が最も印象に残った。これについてより深く考えるために、Nさんは「影に対して」の全文を読んでみた。Nさんは二重傍線部から抱いた疑問点二つを挙げたうえで、それぞれに関わると考えた場面を抜粋し考察したものを次の【ノート】にまとめた。後に示すのは、【ノート】とそれに基づいたNさんとYさんとの対話である。これらを読んで、後の(i)・(ii)の問いに答えよ。

【ノート】

（資料略）

Nさん――私は二重傍線部を解釈するために、授業で読んだ箇所以外にこの母の死顔が描かれている場面と、母の生き方がわかる場面を抜粋しました。ここから母は［ I ］生き方をした人であったと考察しました。ただし、【ノート】の考察では二重傍線部全体の解釈としてはまだ物足りないように感じています。

Yさん――勝呂が「母の死顔」を想起する背景に、そのような母の生き方が提示されていることが、他の抜粋箇所も示してもらうことでよくわかりました。そうなると母のことは美化されて想起されてもよいはずなのに、なぜそれを「まるで残酷な悪戯のように」と勝呂は感じたのでしょうか。この表現によって何か考えはありますか。

Nさん――確かにここは独特な表現ですよね。その点についても考えると二重傍線部の解釈が深まりそうです。結局、「母の死顔」が浮かんだタイミングと状況を踏まえるならば［ II ］と解釈できるように思います。

(i) 空欄［ I ］には【ノート】における抜粋部分を根拠とした発言が入る。ここに入るものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は［16］。

① 周囲の理解を得られずに最後まで苦しみを伴った孤独な人生ではあったけれども、誰もが歩める安全な道ではなく、自分にしか歩めない道を進んでいこうとした
② その厳しさに最後はくじけてしまった悲惨な人生ではあったけれども、誰かを模倣する安楽な道ではなく、危険と困難をともなう独創的な道をあえて進もうとした
③ 家族の意向を優先して時に自分を抑えることを強いられた哀れな人生ではあったけれども、最後まで世間的な幸福ではなく、自分が偉業を成し遂げることを追い求めた
④ 父の言葉が的中したかのような憐れで情けない人生ではあったけれども、選んだ道が自分のためにではなく、息子への教えになるようにと自らを律し続けた

(ii) 空欄［ II ］には本文と【ノート】における抜粋部分を根拠とした発言が入る。ここに入るものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は［17］。

① まず勝呂は、現在の生活に満足しようとしているけれども、そのようなときに限って後ろめたさを突きつけられる点が「残酷」です。加えて勝呂にとって母は別居した後も自分を気遣ってくれた存在で、そのような母を独り死なせてしまった後悔をより鮮明に呼び起こすところに「残酷な悪戯」としての認識がある
② まず勝呂は、現在の家庭生活を大事にする生き方を肯定しようとしているけれども、そのようなときに限って戸惑いを生じさせられる点が「残酷」です。加えて勝呂にとって母が行為は愛情を感じるもので、時に行き過ぎた愛情としての独善性や束縛をも感じるところに「残酷な悪戯」としての認識がある
③ まず勝呂は、現在の自分の生き方を恥じる必要はないと思いこもうとしているけれども、そのようなときに限って母が責めているように感じる点が「残酷」です。加えて勝呂にとって母の教えを守れなかったことは彼に反省を迫るもので、恥の意識を突きつけてくるところに「残酷な悪戯」としての認識がある
④ まず勝呂は、今の人生に妥協しようと自身に言い聞かせているけれども、そのようなときに限って母を思い出す点が「残酷」です。加えて勝呂にとって母が示した道とは木綿が残るもので、再び迷いを生じさせ簡単に自身のあり方を定めさせてくれないところに「残酷な悪戯」としての認識がある

第１回ベネッセ・駿台マーク模試 第２問 問６

第２問 次の文章は、帚木蓬生「花散る里の病棟」（二〇一二年発表）の一節である。「私」が旧制中学の三年生（当時の中学は五年制）の冬、福岡県のとある町の町医者であった父は、往診から帰ってくるなり倒れて、数日後息を引き取った。父は独自の治療法と、持ち前の明るく面倒見のよい気性で多くの患者に慕われていた。これを読んで、後の問い（問１～６）に答えよ。なお、設問の都合で本文の上に行数を付してある。（配点 45）

問６ 次に示すのは、本文を読んだ生徒たちが、「私」の父が詠んだ俳句について話し合っている場面である。これを読み、後の(i)・(ii)の問いに答えよ。

Aさん 「獅子岩」は亡くなったお父さんが気に入って患者さんのところから貰ってきたものなんだね。もとの小説では、お父さんは忙しい中、自分で水盤を買いに行ったみたいだよ。その中に水を張って獅子岩と鮒を入れて、待合室に飾っておいたんだね。

Bさん 俳句に詠まれている「獅子岩」について、もとの小説の本文より前の一節にはこんな箇所があったよ。病院の待合室にあった水盤の水を「私」が替えていた頃の「私」の体験だよ。「私」も本当に獅子岩が好きだったんだね。

（資料略）

Cさん 借家で大きな水盤が邪魔になっても、何も言わないお母さん。お父さんの形見としてお母さんも「私」も大事にしてたんだね。

Aさん お父さんの俳句が、またいいね。いずれも新春の俳句だよ。

Bさん 私は最初の句が好きだなあ。新酒をかけて、岩を清めているのかな。それとも一緒にお酒を味わってほしいと思っているのかな。岩もほんのり赤くそまっているかもしれないね。

Aさん 私たちはまだお酒は飲めない年齢だけど、なんだかとてもすてきな想像だね。でも私は一つ目の俳句が好きだな。Bさんの紹介してくれた小説の一節を参考にすると、［ X ］句だということになるんじゃないかな。

Cさん 二人とも鋭いなあ。私はやっぱり最後の句がいいな。Bさんの紹介してくれた小説の一節とあわせて読むと、本文75行目「ああそうか」という「私」の思いも納得がいくよ。なんともいえず穏やかで温かな感じのする句だと思うよ。お父さんの人柄も想像できそうだな。

Bさん そう考えると、これらの俳句は、［ Y ］。

(i) 空欄［ X ］に入る内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は［18］。

① 水盤の獅子岩が、思わず手を合わせたくなるほどの風格を備えていることを詠んだ
② 大切にしている水盤と獅子岩を携えて初日の出を見に行った時のことを詠んだ
③ 水盤を海に見立てて、海に浮かぶ獅子岩の向こうから朝日が昇ってくる情景を詠んだ
④ 待合室に置いてある水盤の獅子岩に患者さんたちが手を合わせている様子を詠んだ

(ii) 空欄［ Y ］に入る内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は［19］。

① 「私」にとって、お母さんがわざわざ探し出して見せてくれたものとして意味があるものなんだね
② お父さんが「私」のために遺しておいてくれたものかもしれないと考えられるね
③ 水盤に鮒を入れているところが借家での様子と共通していておもしろいんだね
④ お父さんの新たな一面を知るとともに父との絆を「私」に感じさせるものになっているんだね

いずれも本文の表現に着目して考察を深める出題。本文と同出典の別箇所を引用しながら、対話形式で本文の内容読解を問う構図で、表現の解釈の根拠を本文と設問内のテキストに求めながら、内容理解を深める思考力が求められた。

©Benesse Corporation.

2 【国語】 ベネッセ共通テスト対策教材と同傾向の出題

共通性のある二つの文章の内容を考えあわせることで、全体の理解を深める出題

共通テスト 第５問 問７

本文 『松陰快談』

問７ 次の【資料】は本文と同じく豊山の文章である。本文と【資料】の両方から読み取れる、詩の評価に関する豊山の考えとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 37 。

【資料】

【資料】『松陰快談』

余於詩無所偏好不問其風調之異同(注1)佳者取之。但生硬(注2)

(注) 1 風調――詩風。 2 諷詠――詩を朗唱する。 3 韻致――気品や風情。

① 世の詩人たちは、徒党を組んで詩の上手下手を争っているが、重要なのは世間の人々の評判である。名声の高い人物の作品であっても、親しみやすさに欠けるものは評価に値しない。

② 世の詩人たちは、作風にこだわって党派争いをしているが、重要なのは詩としての完成度である。名声の高い人物の作品であっても、風趣に乏しく稚拙なものは評価に値しない。

③ 世の詩人たちは、徒党を組んで詩の上手下手を争っているが、重要なのは作風の独創性である。名声の高い人物の作品であっても、独自の風格を持たないものは評価に値しない。

④ 世の詩人たちは、作風にこだわって党派争いをしているが、重要なのは表現の平易さである。名声の高い人物の作品であっても、奇をてらった作為の目立つものは評価に値しない。

同じ筆者が書いた二つの文章から、筆者の考えを読み取る

【出典】 2026年度大学入学共通テスト（本試験）より

2026直前演習 第７回第５問 問７

【文章Ⅰ】『玉光剣気集』

【文章Ⅱ】「先君行略」

問７ 次に掲げるのは、授業の中で【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】について話し合った生徒の会話である。これを読んで、後の問いに答えよ。

生徒A 【文章Ⅰ】から読み取れる文徴明の人柄はどのようなものだろう。

生徒B 書画の鑑定に詳しい人だったようだね。それから真面目さや性格のよさも感じたな。

生徒C たしかにそうだと思うけど、見方を変えると、ちょっと人がよすぎるという気もする。

生徒A でも、【文章Ⅱ】からは少し違う側面が読み取れるんじゃないかな。

生徒B うん、そうだね。芸術家としての一面がうかがえるね。

生徒C 【文章Ⅱ】から読み取れる文徴明像をまとめると、［　　］となるかな。

右の会話の空欄部に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 40 。

① 自分の人間性を慕って交際を求める者には喜んで応じたが、権力を笠に着た者に対しては徹底的に拒否する態度を崩さなかった。そのような信念を文章に記した後、満足して天寿を全うした

② どんな人とも気軽につきあう社交性を忘れなかったが、利益や権力による誘導については敏感に担み抜いた。そのような自分の生き方について語ることには寡黙さを保ったまま、生涯を終えた

③ 故郷の人の要望に応じる気持ちはあったが、自分の生き方を曲げてまで仕事をしようとはしなかった。特に中央の権力者に対しては徹底的に拒否する態度を取り、そのことを公言してはばからなかった

④ 多くの人が彼の作品を求めてきたが、中央の権力者との関係を持つことに関しては慎重であった。自分の生活を大切にするとともに、死の間際まで人のために尽くすことをいとわなかった

同じ人物について述べた二つの文章から、その人物の人物像を読みとる

【出典】 2026直前演習国語より

いずれも、二つの文章を貫く観点を押さえ、筆者の考えや登場人物の人物像をつかむことが求められた。複数のテキスト間の関係性を理解し、内容を考えあわせて全体の理解を深める思考力が必要とされた。

©Benesse Corporation.